

自己評価				
学校運営計画 (4月)				評価 (総合)
学校運営方針	県立高校として福岡県の目指す教育目標に沿いながら、校訓である「進取、至誠、自治」の精神を涵養する教育を行う。			
昨年度の成果と課題	重点目標	具体的目標		
<p>感染症防止対策を講じながら、可能な限り教育活動を実施することができた。しかし、保護者や外部の方に本校の教育活動を見てもらうことができず、PR活動も十分にできなかった。</p> <p>大牟田市内の中学生人口の減少、私立高校の専願入試等の影響もあり、定員割れが生じた。高校入試の見直し、大学進学実績の向上、中学生が三池高校を自ら選択するような、三池高校の魅力の発信が急務である。</p> <p>ICTの活用に関する環境整備は整ってきているが、どの教員も気軽に利用でき、必要に応じて対面からリモートにすぐに切り替え、教室以外でも生徒が学ぶことができる体制を、より一層整える必要がある。併せて、研修や授業改善により、教員間のICT活用の差を無くしていく。</p> <p>生徒の理解度の差が広がっており、授業の展開の工夫が急務である。一人一台端末を利用し、生徒の状況にあった課題の提示やアドバイスをし、「個別最適な学び」の推進を図る必要がある。</p> <p>生徒は素直であるが、積極的に自己を表現する経験が少ない。自主的に発言したり活動する場を増やし、失敗を恐れず自己主張する経験を積み、各自の希望進路実現につなげたい。</p>	(1) 「個別最適な学び」および「協働的な学び」の実践	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を日々行い、教師及び生徒がICTを活用しながら「個別最適な学び」や「協働的な学び」等を推進する。特に、一人一台端末の活用法を各教科、分掌等で研究を深める。また、難易度の違う複数の教材や課題を準備し、生徒のニーズに合わせて提供することにより、生徒の自発的な学びを促す。		
	(2) 計画的なキャリア教育の実施	教育活動全体を通じて、ガイダンスとカウンセリングの機能を充実させながら、生徒一人一人の可能性を最大限に発揮できるように計画的にキャリア教育を実施する。特に、特別活動や、総合的な探究の時間を有効に使い、三年間を見通した効果的なスケジュールを組み、全職員で共通認識を持ち、進める。生徒が高い進路意識を維持するだけの学力を計画的に身に付けさせる。また、国公立大学志望者のモチベーションを維持し、私大や指定校推薦に安易に流れない指導を行う。		
	(3) 生徒の「進取」、「自治」の意識の育成	生徒に自己存在感を深めさせながら、自己の可能性の開発を援助することで、自己指導能力の育成を目指す。様々な場面で、生徒が自ら考え、発表する場面を設け、新しいアイデアを尊重する環境を作る。その一環として、生徒会活動、部活動の一層の活性化を図る。		
	(4) 広報活動の充実	三池高校の良さを再確認するとともに、中学生や保護者、地域の方々にPRする様々な方策を考え実行に移す。特に、本校生徒が直接広報する場面を多く作る。		
	(5) 学校安全(生活安全、交通安全、災害安全)に対する意識の向上	生徒が自他の生命尊重を基盤として、自ら安全に行動し、他の人や社会の安全に貢献できる資質・能力を育成するとともに、生徒の安全を確保する環境を整備する。そのために、ボランティア活動や社会貢献活動などの体験活動の機会を設定する。また、日常の環境整備の徹底を図る。		
	(6) 課題を抱える生徒への個別の支援	個別課題の特質を理解し、一人一人の生徒に応じた指導や支援、あるいは関係機関との連携など、適切で効果的な支援を行う。そのために、生徒指導に関する研修を実施し、職員の共通認識を図る。		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価 (3月)	次年度の主な課題
学事部	教務班	三高生らしい生活習慣とともに、自ら考え行動できる力を身に付けさせる。		
		自ら心と体の健康に留意できる態度を身に付けさせ、皆勤を目指して生活させる。		
		基本的な生活習慣の中に、それぞれの学年に応じた学習習慣を確実に位置づけさせる。		
	総務班	ICT活用、言語活動の充実に根ざし、学ぶ喜びを感じる授業を目指す。		
		自己の課題を発見し、解決できる能力を身に付けるため、各教科との連携を図る。		
		進路実現を見通した学力の向上のため、生徒の学習時間の充実に取り組む。		
学校行事の円滑な運営	学習指導要領や新たな入試制度に対応できる教育課程の編成に取り組む。			
	学習内容に適した評価の観点・規準を設定し、的確な評価により学習指導に活用する。			
	3年間の指導計画、評価の観点を明確にし、見直しをもって生徒が授業に臨めるよう工夫する。			
庶務関係業務のスリム化	各行事の計画を2ヶ月前から立て、各部・各班や学年との連絡調整を緊密に行う。			
	各行事の業務分担割については、業務内容や担当分掌に鑑みて適材適所で配置する。			
	実施要項を1ヶ月前に提示し、計画的かつ円滑に運営できるようにする。			
父母教師会との連携の円滑化	職員への連絡や配布プリント等にICTを有効活用する。			
	実施後の記録や文書の管理と整理を適切に行う。			
	諸業務の内容を精査し業務内容のスリム化を図る。			
関係機関との諸会議が円滑に進むように補佐する。	父母教師会の諸行事が円滑に進むように補佐する。			
	同窓会事務係との連絡を密に行い連携を図る。			
	関係機関との諸会議が円滑に進むように補佐する。			

学校関係者評価	
評価 (総合)	学校関係者評価委員会からの意見
自己評価は A 適切である B 概ね適切である C やや不適切である D 不適切である	
項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価（3月）	次年度の主な課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見	
教務部	広報班	本校の特色を中学校、地域へ向けて発信	校内行事等の定期発信を行い、SNS登録者数が1000人を超えることを目標とする。 職員および在校生による中学校訪問、管理職による学習塾等の訪問を行い本校認知度の向上を図る。 ICT教育、新校舎等の本校の特色を進路相談事業および出前授業にて紹介する。					
		広報物の向上・充実	学校行事等の内容を含む三高だよりの定期的に発行し、校内の情報を発信する。 特色あるパンフレット、募集ポスター、しおりの作成を行う。 閲覧者を増加させるために、ホームページ内のコンテンツを充実させる。					
		校内ICTの適切な管理	生徒・職員用ネットワークの適切な管理に努める。 校務支援システムの適切な管理に努める。 情報機器の適切な管理に努める。					
		進路研究・進路学習の充実	各学年の担当と学年との連携を密にした企画運営 学部・学科研究等による進路意識の高揚 「志講演会」及び「出前講座」「リモート講義」をとおしてグローバルな視野を持った人材の育成					
	キャリア育成部	生徒個々にあった進学・就職指導	受験校・就職先の綿密な検討（入試制度を理解させ、有効な受験校選択・出願を促す。年間2回の受験校検討会実施する。就職希望生徒への丁寧な個別対応をする。） 小論文・面接指導の充実（職員が連携した指導を行えるよう状況を整える。） 学校外部の様々な資格試験や研修会を紹介し、生徒に積極的に参加させる。					
		模擬試験の成績向上	朝夕課外・土曜チャレンジセミナーの充実（各教科・学年と連携し内容の検討を行い、柔軟に対応していく。） 長期休業中の補習の充実 模試分析会の充実（1・2学年は各模試後に毎回分析会を実施。3学年は必ず教科で分析会を実施。学年・教科で課題解決策を考え、その内容を生徒へ還元する。）					
		教科指導力の向上、多様化する生徒や時代に求められる指導力向上、若年教員の授業力向上を図る。	教育センター等の外部で研修などを積極的に呼びかける。 ICT支援員を活用し、2か月に一回程度の割合で端末の活用能力向上の研修時間を設ける。 授業アンケートによって自身の授業評価を分析し、若年教員を中心とした参観授業を行うことで授業者および若年者の授業力向上を図る。					
	研修・図書班	全教科・領域で人権教育に関する目標を年間計画に盛り込み教育活動を行う。また、教育実習を通して実習生の人間形成と教師としての資質向上を目指す。	人権教育に関する情報を収集し、実態に応じた指導内容を検討する。 人権教育推進委員会で検討された内容を十分に理解するために、学年での事前検討会を2週間以上前に行う。 大学および担当教員との連携を十分に行い、余裕をもって企画立案を行っていく。					
		新図書室の利用を促進し、生徒の読書量の増加を図る。	学年や他分掌、教科と連携し読書に親しむ態度を育成する。 図書委員会主体で発表会や読書活動に推進し、定期的なライブラリーニュースを発行する。 図書委員合同研修会での主体的活動を通して生徒の自主性を育成する。					
		基本的な生活習慣の確立と自己指導能力の育成	積極的な生徒指導をおこない、問題行動の未然防止に努める。 講演会を実施し、生徒の規範意識の高揚を図る。 交通ルール遵守、命の大切さを訴え、自他に思いやりが持てる生徒を育成する。					
	健全育成部	生徒指導班	生徒会活動の充実	ビジョンを明確にし、生徒会執行部のリーダーシップのもと学校行事を充実させる。 挨拶運動等を実施し、三高生としてふさわしい行動がとれる生徒を育成する。 生徒が主体的に学校行事等の運営をおこなうシステムを確立する。				
			部活動の活性化	部活動紹介や体験入部を充実させ、新入生の部活動加入を促進する。 運動部集会を実施し、三高生の代表としての自覚を深めさせる。 教員数及び生徒数の減少に応じた部活動数の検討をおこなう。				
生徒の健康の維持管理と教育相談の充実			疾病、感染症の予防と、自己の健康管理を主体的に行う力を身につけさせる。 生徒自らが心身の健康課題に対し自主的に行動できるように、現状の把握を行い、指導・啓発活動を行う。 担任・学年・教科担当・保健室との連携により、迅速な対応を行う。また、関係機関との連携の充実を図る。					
保健班		環境整備と安全教育の充実	月一大掃除の内容を充実させ、行事に連動して検討・計画する。 美化委員会を中心に、清掃強化週間の実施や掃除道具の点検を行い、ゴミの分別・減量化を図る。 安全管理体制の整備と、職員の危機管理能力、資質の向上を図るとともに、生徒の安全対応能力を育成する。					
		いじめの未然防止と早期発見	いじめ問題対策委員会を定期的実施し、情報の共有と、その解決策について検討する。 必要に応じて第三者の指導、助言を仰ぐ。 いじめの未然防止に向けて、職員研修、道徳教育、人権教育、啓発活動の充実を図る。					

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）	次年度の主な課題
第1学年	基本的な生活習慣の確立	挨拶・5分前行動・清掃の徹底により高校生としての社会性を醸成する。 身の周りの整理整頓・提出期限の遵守により自己管理を徹底させる。 集団の一員として、状況に応じた適切な態度・言葉遣いを身につける。		
	基礎学力の定着と進路意識の高揚	平均学習時間は平日120分以上、休日180分以上を目標とする。 模試で平均偏差値50以上を目標とする。 理解度に応じて教材や課題を工夫し、学習意欲を向上させ、生徒の自発的な学びに繋げる。		
	個別支援の充実	職員間の情報交換を密にし、関係機関とも連携を図り、個に応じた支援を行う。 各種アンケートや面談を充実させ、生徒の現状把握に努め、諸問題の未然防止に繋げる。 保護者との信頼関係を築き、生徒の諸問題の早期発見・早期解決に繋げる。		
第2学年	進取の精神と学びに向かう力の涵養	生徒が自ら考え発表する場面、アイデアを尊重する環境の設定（三高祭等） 3点固定定着（起床・学習開始・就寝）、学習時間（目標3時間）の確保に向け生活の記録の見える化の取り組み 個に応じた学びとして生徒のニーズに合わせたICT活用の取り組み		
	進路意識の向上とキャリア教育の充実	受験を見据えて教科横断的な視点で総合的な探究の時間や各教科での内容の検討、実施 生徒の現状を見抜き、適切な講話や講演等の進路学習の実施 やりたいことを見いだせるよう、校内外活動での選択の場の設定（修学旅行、進路研究、ボランティア活動、等）		
	きめ細やかな生徒指導と学校・家庭との連携	生徒自身が善悪の判断をつけ、自己決定・自立できるよう明確かつ具体的な指導の実施 学校・家庭・第三者機関との連携強化、的確な情報共有、迅速な初期対応 学年便りやインスタグラム等の配信、PTA懇談会等による継続的な学校・家庭間の情報共有		
第3学年	進路実現に向けた個・集団の資質能力の向上	国公立大学合格35名以上、西南学院大学合格20名以上、福岡大学合格60名以上を目標とし、集団としての進学意識の醸成を図る。 定期的な二者面談をもとにガイダンス機能を充実させ、早期の目標決定を目指す。 最新の入試情報をいち早くキャッチし、総合型・学校推薦型選抜における生徒の適正理解に努め、個別指導の充実を図る。		
	豊かな人格・人間性の育成	大運動会を中心とした学校行事や部活動をとおして、全人格的な成長、「最上級生としての自覚」の醸成を図る。 生徒主体・自己理解・自己決定の場を日頃から設け、生徒指導を充実し、主権者・社会人としての自覚を育成する。 取り組んだ結果はもとより、その過程を重視し、生徒への適切な評価を心掛ける。		
	学校・家庭・関係機関の連携を軸とした生徒指導の充実	定期的な担任会はもとより、普段からの生徒情報交換を密にすることで、適切な生徒指導を行う。 保護者との連絡をさらに密にし、教員と保護者が互いに足りない部分を補い合いながら課題解決の手だてを講じる。 スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、関係機関の協力を仰ぎながら、課題を抱える生徒への手立てを講じる。		
事務部	各部（班）の具体的方策実施に必要な経費を捻出するための学校運営費の効率的な執行	昨年度比100万円減額となった学校運営費の効率的な運用 光熱水費と物価上昇に伴い購入物品を精選 予算状況の定期的な公開と執行に関して学校重点目標への貢献の確認		
	大規模改築工事と学校運営の円滑な遂行	擁壁工事と権友会館、天翔館工事と学校行事との両立 12月末の管理諸室移転の備えた準備と校内での確実な情報伝達・調整 新校舎の運用と工事に伴う事故の未然防止と注意喚起		

自己評価及び学校関係者評価委員会の評価をもとにまとめた改善策（項目を設定して、個条書きで記入すること。）

※ この欄は学校関係者評価委員会では記入しないこと。

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見

標記項目以外のものに関する意見

・特になし